

年 頭 ご 挨拶

社団法人日本産業車両協会

会長 石川忠司

皆様 明けましておめでとうございます。

平成20年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の日本経済は、平成14年度から始まった経済成長が6年目に入り、バブル期以来の長期成長を持続しておりますが、アメリカのサブプライムローン問題や原油価格の高騰、また国内にあっては住宅着工の減少といったマイナス要因もあり、政府が当初見込んでいた2%台の成長はかなわず、1%台にとどまるものと思われます。

しかしながら、本年は堅調な設備投資や新興国向けを中心に輸出も増加基調となるため、再び2%台の成長軌道に復帰することが見込まれております。

私ども産業車両業界の状況としては、昨年の国内生産額は4年連続の拡大で約4800億円に達するものと見込まれ、主力機種のフォークリフトでは、国内販売台数が前年並みにとどまるものの、輸出台数は世界市場の伸びを反映して史上初めて7万台を超えることは確実で、国内と輸出を合わせた台数でも過去最高の水準となるものと見込まれます。そして来る平成20年も輸出を中心に堅調な伸びが続くと期待しております。

このような好環境の下で、私どもの協会は今年の6月で設立60年という節目を迎えることとなります。60年前にはフォークリフトはまだ産声を上げたばかりの時期で、鉱山や工場等の構内で使用される機関車や貨車が産業車両の

主力となっております。

しかし現在では、フォークリフトが世界市場で大きな位置を占めるまでに成長し、無人搬送車システムも新たな物流システムの中でしっかりと定着しております。このような発展を遂げることができましたことも、ひとえに会員企業の皆様の長年に亘るご尽力の賜物であると深く敬意を表する次第であります。

将来の日本は少子高齢化のため、労働力が不足すると見込まれておりますが、物流現場でも大きな影響が出てくると思います。私どもは物流の効率化、高度化に貢献する車両・機器、さらにソリューションを提供するというこれまで担ってきた役割をさらに磨き上げ、業界がこれからも発展を遂げられますよう、活発な協会活動を行ってまいりたいと思います。

まずフォークリフトについては、「国際化」、「環境」、「安全」の3つのキーワードに即して事業を進めておりますが、まず「国際化」では、本年5月に本会がホストを務めて第11回アライアンス業界首脳会議を開催いたします。今回からは従来の日欧米の枠組みを拡大し、中国業界の代表も参加することとなり、ますますグローバル化が進む業界にあって、安全や環境等の共通課題について意見交換等を行って、協力体制の構築を図ってまいりたいと考えております。

次に「環境」に関しましては、平成18年から拡大、強化されてきているフォークリフトを含む特殊自動車への排ガス規制について、お客様に広く周知徹底を図り、作業現場の環境改善に貢献してまいります。

さらに平成14年に策定いたしました「産業車両製造業の環境自主行動計画」に基づいて、地球温暖化、産業廃棄物問題への対策として、業界として工場で

発生するCO₂や産業廃棄物の最終処分量の削減目標を掲げ、その実現へ向けて着実に取り組んでおります。特にCO₂に関しましては、本年から京都議定書における削減約束期間に入ることもあり、取り組みの強化が必要であるものの、産業車両業界では好調な生産もあり、なかなか目標通りに削減が進まない状況です。今後とも会員各社の一層の省エネ努力をよろしくお願い申し上げます。

またCO₂削減に貢献する製品の提供という面では、今年のフォークリフトの国内販売台数のうち、バッテリー式の割合がほぼ5割に達する見込みで、今後ともこうした環境に優しい製品の開発、普及促進に努めてまいります。

さらに、環境への対応は国内のみにとどまるものではありません。世界各地の様々な環境規制にしっかりと対応していく必要がありますが、例えば欧州の化学物質規則REACHについては、内外の関係団体と協力しながら、適切な対応を図ってまいります。

3つ目の「安全」につきましても、産業車両分野の国際安全規格であるISO3691の改正審議に積極的に参画しており、7月には日本で内外の関係者を集めてISO/TC110会議を開催する予定となっております。長年取り組んできた改正審議も大詰めに差し掛かっており、今回の日本会議で新たな規格の姿が明確にできるものと期待しております。また国土交通省のリコール検討会にも特殊自動車業界を代表して参画して、リコール制度の改善強化への協力を行っております。

このように、今後ともグローバルな視点の下で、環境に優しい、そして安全な製品の開発と供給を通じて、業界をさらに発展させ、世界中のお客様にご満足いただけるよう努めていかなければならないと考えております。

また、無人搬送車システムに関する事業では、物流機器の中核の1つと位置付け、多様化する物流効率化ニーズや、関連技術の開発・普及状況なども見据えながら、安全基準の見直しや国際競争力の強化について、関係団体・機関と協力しながら、さらなる活動の強化を図ってまいりたいと思います。

さらに、特殊自動車の届出業務につきましても、先ほど述べました排ガス規制への対応をはじめとして、環境・安全に関する社会的要請や国際的な基準調和の動き、さらにはリコール制度の適切な運用等に関して、業界としてしっかりと対応を行ってまいりたいと考えております。

そして本年9月には東京で「2008国際物流総合展」が開催されますが、私どもも主催団体の一員として、人と環境にやさしい物流システムというテーマにふさわしい、新製品や新サービスの展示を行って、ぜひこのイベントを成功に導きたいと考えております。

以上ご紹介したように、私どもは様々な取り組みを通じて、業界の基盤強化と社会的地位の向上を図り、今後も引き続き業界の発展と繁栄が遂げられるよう、全力を尽くしてまいりたいと考えております。

ぜひとも会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

さらに、経済産業省、国土交通省、環境省、厚生労働省をはじめとする関係御当局におかれましても、協会の活動に関しまして、よりいっそうのご指導ご支援を賜われますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご発展を、心より祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。